

21st Century
Digital Audio Platform

mfX3^{plus}

Speed, Reliability, Simplicity...

Who says Digital Audio
has to be difficult?
Fairlight MFX3^{plus} makes
Digital Audio easy to use,
easy to buy and easy to maintain.

Which makes your choice of
workstation easy –
Fairlight MFX3^{plus}
...for all the right reasons.



fairlightTM
DIGITAL AUDIO SOLUTIONS

21st Century Digital Audio Platform

MF3plusはオーディオのレコーディングと編集において究極のスピードと使い易さを実現した、フェアライトの次世代のデジタルオーディオワークステーションです。制作作業の流れを管理するのに必要なソフトウェアやサウンドライブラリー、ストレージなどを統合し、MF3plusは将来的な拡張性を考慮した設計がされています。MF3plusはPCIバスに対応しており、データストレージやコミュニケーション、ネットワーク、接続性などにおいて、現在も将来もそのハードウェア技術をサポートいたします。MF3plusはフェアライトのこれからのデジタルオーディオ技術開発のベースであり、現在、そして明日のソリューションを実現しています。

Tailored Solutions

MF3plusはデジタルAES/EBU I/O (4チャンネル単位)を最大24チャンネルまで備えることができます。24bitのクオリティのアナログI/OをデジタルI/Oと組み合わせて構成をすることも可能です。フェアライトのモジュラーソフトウェアで、どのようなアプリケーションや予算でも、ユーザーの用途に合わせてMF3plusシステムのハードウェアやソフトウェアをカスタムで構成することができます。

Informative Graphics Display

MF3plusディスプレイは、様々なオーディオプロジェクトを作成するために必要な全ての情報を表示します。さらに重要なこととして、必要な情報を素早くかつ整然と表示し、オペレーターが読み取りやすいディスプレイ設計となっています。

プロのエディターによって考えられた基本として、全てのトランスポートモードでの高解像度ウェーブフォーム表示のスクロール機能、プロジェクト内の全てのオーディオを可能な限り詳細に見ることが



高解像度ウェーブフォーム表示は、24トラックの範囲内で自由に表示することができます。

きる機能があります。オペレーターはオーディオを視覚的に見ることができ、エディットポイントを見つけることがより容易になり、別のソースからのオーディオのマッチングも簡単にできます。波形表示には16段階のズームがあり、8時間から200ms (6フレーム)の間で表示されたオーディオの時間軸を、画面上で自由に縮小/拡大することができます。

Familiar Operation

MF3plusはオーディオエンジニアがなじみやすいよう、従来の24トラックテープレコーダーに似たトランスポートコントロールを備えています。従来のレコーダーと違って、MF3plusはプロジェクト内の任意のポイントからの即座の再生ができるランダムアクセスオペレーションが可能となっており、また、ノンディストラクティブなレコーディング、編集が可能で、オペレーションでミスがあった場合は以前のテイクやエディットを復元することができます。マルチトラックレコーディングでは、Tape Modeで24トラック全てにおいて継ぎ目のないパンチイン/パンチアウトができるようになっています。

Object-Based Editing

MF3plusの編集ソフトウェアは、独自のオブジェクトベース (クリップベース) の設計となっており、直感的かつ高速のオペレートが可能で、パワフルで柔軟性のあるものとなっています。フェアライト独自の編集に対するマルチレイヤーの手法により、複雑で時間のかかるプロセスが減り、作業を簡略化することができます。

Clip-Based Equalization

パワフルな4バンドパラメトリックイコライザーは、プロジェクト内の各クリップに対応させることができ、視覚的なスクリーンを使って設定することができます。EQ設定はA/Bのオーディションができるようになっており、クリップ間でバンド選択をし、EQデータのみをコピーすることもできます。

Connectivity

MF3plusは、AKAIやWaveFrameメディアとの間でインポート/エクスポートが可能で、さらにLightworksやOMFファイルの読み込みも可能です。また、WAVEファイルフォーマットでモノ/ステレオのオーディオをインポート/エクスポートすることができるので、他のデジタルオーディオシステムへの転送が簡単にできます。フェアライトのNTベースのAudio Serverを利用したMediaLinkを利用すると、LANやWAN、インターネットといった接続が可能となり、さらに世界が広がります。

Powerful Options

MF3plusのオプションの1つであるフェアライトのTimefxソフトウェアは、周波数領域のタイムコンプレッション/エクスパンション、パリスピード、バリピッチなどの機能を持っています。

フェアライトのAudioBaseは、オーディオのデータベース機能とオーディオクリップのサーチエンジンを備えています。クリップ検索は、指定された基準、ワイルドカード、もしくは同時に複数のフィルドの定義をすることで実行することができます。

MF3 Autoは、ビデオのEdit Decision List (EDL)に従ってソースオーディオを一致させることができます。ほとんど全ての一般的なビデオ編集機によって作成されたリストをロードし、管理したり編集したりすることができます。

フェアライトのAd-Dubモジュールは、簡単なPCインターフェースを使ってセリフのダビングのオフラインスポットティングや会話の置き換えを行うことができます。

Storage

大容量のオーディオストレージとして4GB、9GB、18GB (あるいはそれ以上)のハードディスクや、マグネットオプティカル (MO) ドライブ、あるいはExabyte高速データカートリッジテープバックアップユニットなどを含め、新世代のSCSIデバイスを7台までMF3plusシステムに接続することができます。

Flexible Modular Software

MF3plusはモジュラーシステムのソフトウェアを特徴としており、システムの構成や機能をその時点での必要に応じて組み立てることができるとともに、将来のアップグレードが可能となっています。

作業の特定されたタスクに対して、様々なプロダクションツールが別々のモジュールとして用意されており、その中には、オーディオ編集機能のツールボックスを備えた8、16、24までのトラックの構成で提供されるマルチトラック編集ソフト、9pinマシンコントロール、パラメトリックEQ、Timefx、OMFインポート、ネットワーク、Ad-Dub、AudioBase、プリント機能、オーディオミキシングなどがあります。

Open Media Framework (OMF) インポートはOMFファイルを素早くインポートすることができます。Macintoshからオーディオを直接再生したり、1つのコマンドでMF3plusにインポートすることができます。

fairlight
JAPAN

株式会社 フェアライトジャパン

本社 〒157-0066 東京都世田谷区成城4-2-23 Phone 03(5490)1515 Fax 03(5490)1516
大阪 〒530-0041 大阪市北区天神橋3-1-35-7F Phone 06(6356)3081 Fax 06(6356)3080

<http://www.fairlight.co.jp>